

青梅市の公の施設指定管理者評価シート

令和元 年度実施分

施設名	青梅市御岳交流センター		
指定管理者名	一般社団法人 青梅市観光協会		
指定管理期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	担当課	商工観光課
設置目的	御岳渓谷から御岳山までの地域(以下「御岳エリア」)を中心とした観光情報を発信するとともに、御岳エリアにおける自然を生かしたスポーツ・レクリエーション活動の促進や地域の活性化を図る。		

評価ランク	評価内容
S	協定等を遵守し、仕様よりも優れた管理であった。
A	協定等を遵守し、仕様に沿った管理であった。
B	協定等を遵守し、おおむね仕様に沿った管理であったが、一部に課題があった。
C	協定等を遵守できず、仕様に沿った管理ができなかった。

評価項目	評価内容	評価方法	指定管理者評価	評価理由	市評価	評価理由	
管理状況	適性な管理の履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか。 ・業務の履行(清掃・巡回の回数など)は適切か ・人員配置は適切か。 ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	事業報告書	S	協定や事業計画以上に管理を行っている。例えば、ロケーション対応など。	S	事業計画や業務基準に基づき、適切に管理が履行されている。また、施設内外は常に綺麗にしており、突発的な施設の利用などにも臨機応変に対応している。
	事業報告	定められた期間での報告および連絡が指定管理者からされているか。	事業報告書	A	定められた期間に文書により報告している。	A	年度終了後60日以内に、収入実績、事業実績などをまとめた事業報告書をもって報告を受けている。
	安全性の確保	管理区域内の安全性については十分に確保されているか。 ・施設の安全性は確保されているか ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	業務日誌	A	エレベーターや自動ドア、消防施設の点検など、施設の安全性が確保されている。また、日常点検は、職員が行っている。	A	空調、自動ドア、エレベーターなど保守・点検を行っており、管理区域内の安全性の確保がされている。
	法令等の遵守	個人情報保護のための体制、書類および情報の整理および保管等は適正であるか。 ・市への報告は適時、適切にされているか など	事業報告書	A	個人情報等は、シュレッダーによる裁断処理をするなど適正に処理をしている。	A	青梅市情報公開条例および青梅市個人情報保護条例の趣旨にもとづき、適正に報告されている
	業務記録	業務等の記録は、適正に作成、整理および保管がされているか。	業務日誌	A	交流センターおよび観光協会に保管し、市にも提出している。	A	協定書の定めのとおり、業務日誌を一月毎に取りまとめ、翌月に提出がされている。
	緊急時対応	災害時等の緊急時の体制は整っているか。	マニュアル	A	対応マニュアル・連絡網を整備している	A	事業計画書において緊急時連絡体制が整備されている。
		災害時等の緊急時の対応研修、訓練等を行っているか。	研修	A	日向和田消防署の協力を得て、防災訓練を行った	A	年に1回災害の対応訓練が行われており、業務日誌において確認している。
適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか ・建物や器具の破損、物品の紛失等はあるか など	業務日誌	A	適正に管理がなされ、器具の破損、物品の紛失等はない。	A	管理運営業務基準にもとづき、速やかに方向がなされている。	
事業効果等	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか ・事業の計画、実施、成果は計画どおりか など	事業報告書	A	計画どおりに実施し、事業報告書で報告している。	A	新型コロナウイルス感染症対策により、一部計画どおり実施できなかった自主事業もあったが、適切に実施の可否が判断されていた。
	利用の状況	事業計画どおりの利用状況となっているか ・利用者は事業計画どおりか(環境の変化など外部要因を考慮)	事業報告書	A	台風19号の被害などを除けば、計画通りに実施している。	A	今年度は台風19号および新型コロナウイルス感染症対策により計画どおりの利用状況ではなかったが、適正な利用状況であった。
	利用者意見の収集	利用者アンケート等を年1回以上実施し、利用者意見の収集をおこなっているか	アンケート	A	利用者アンケートを実施している。	A	利用者アンケートは年間を通じて設置しており、利用者の意見は年間を通じて収集している。
		利用者の満足度を得られているか ・職員の接客対応、利用条件等は適切か	アンケート	A	現在のところ、アンケートの回答で苦情の報告はない。	A	業務日誌において、管理業務員が参加する研修を毎月行っていることを確認している。研修では利用状況を検証し接遇の改善などについて協議している。
	利用者意見に対する対応	利用者アンケート等による意見に対し、適切に改善策が講じられているか	アンケート	A	アンケートの回答をもとに、研修にて対応を検討する。	A	アンケート等の意見については、研修会において対応策を協議し対応している。
	行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか ・施設の設置目的を達成しているか ・市および関係機関との連携が適切に行われているか など	事業報告書	A	適宜、報告を行っており、青梅マラソン、奥多摩渓谷駅伝など所管課以外の市の事業にも協力している	A	市や関係機関と適切に連携を図り、地域の活性化に貢献している。その他、市の事業にも協力的である。
	その他提案内容等	指定管理者選定時に提案のあった事項等について、提案とおりに実施できたか	事業報告書	A	台風19号やコロナ感染症対策により取りやめたもの以外は実施している	A	台風19号、コロナ感染症対策などにより、当初の提案どおりとはいかなかったが、適切に変更、縮小、中止などの対応ができていた。
会計	処理	管理業務の会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされているか。	伝票	S	観光協会の会計監査において適正になされている。	A	会計監査および総会などにおいて、帳簿、書類の整備および保存が適正にされていることを確認している。
	管理	現金等の管理は適正であるか。また、金庫等の鍵の管理は適正であるか。	伝票	S	現金および鍵の管理は適正になされている	A	会計監査などにおいて、現金や金庫の鍵など適正に管理されていることを確認している。
収支状況	施設の収支決算状況	赤字決算に陥っていないか。 予算と決算に大きな相違があった場合はその相違の理由が明確である。	決算書	A	決算書の通りで赤字ではない	A	決算書において適正な収支決算状況であることを確認している。
	指定管理者の収支決算状況	経常利益率(経常利益÷売上高×100(当期経常増益額÷経常利益×100))がプラスになっており、赤字決算に陥っていない。	決算書	A	決算書の通りで赤字ではない	A	決算書において適正な収支決算状況であることを確認している。
		借入金に依存した資本構造ではなく、自己資本比率(自己資本(または正味財産)÷総資本×100)が30%以上となっている。	決算書	A	決算書の通りで借入金は少ない	A	決算書において適正な収支決算状況であることを確認している。
		流動比率(流動資産÷流動負債×100)が100%以上になっており、事業継続の安全性に不安がない。	決算書	A	決算書の通りで事業継続の安全性に不安はない。	A	決算書において適正な収支決算状況であることを確認している。

1 指定管理者自己評価における評価理由、意見等

評点	数	記入欄
S	3	<p>記入欄</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東京観光財団の補助制度を活用して、御岳交流センターも利用した御岳渓谷紅葉ライトアップ事業を実施した。 ○平成31年度は利用者が若干減少したが、台風19号の被害の大きさを考慮すれば、問題ないと考えられる。H30:19, 247人⇒18,659人(3%減) ○8月(お盆休み)と11月(紅葉)は、毎月1回の休館日を返上して開館した。また紅葉のライトアップ期間中は全日(16日間)、午後8時まで延長するとともに、土・日・祝は、人員を増強し2名配置した。 ○毎月一回、当協会会長も出席して研修を開催。サービスや接客態度等の向上について話し合いを持った。 ○夏季シーズン(6月22日～9月23日)は、カヌー競技等の利用者へ配慮し、夜間延長してサービスの向上を図った。 ○施設については、エレベータ点検や駐車場の看板修理、雨どい清掃、ボルダリング施設、シャワー排水等についても点検修理を実施した。 ○2月21日には、日向和田消防署の協力により、災害時の連絡・対応マニュアルに基づき従事員全員で職場の安全点検を実施した。 ○施設周辺の園地に彼岸花等の植栽を実施するとともに、春・秋に花苗を施設周辺のポット花壇に植栽した。 ○5月～11月は、従事者全員で毎月1回、施設外部の除草、ごみ清掃、落ち葉清掃を実施した。
A	18	
B	0	
C	0	

2 市の評価、意見等

評点	数	記入欄
S	1	<p>記入欄</p> <p>今年度は、台風19号被害や新型コロナウイルス感染症拡大があったにもかかわらず施設利用率が前年度比3%減でおさまったのは、カヌー競技者への夜間延長対応や、研修会におけるサービスおよび接客態度等の向上に努めるなど、利用者に対するサービス向上に努めた成果であると評価できる。市が実施する事業、オリパラ競技開催等に伴う各種事業についても非常に協力的であり、地域の活性化を図るための拠点施設という役割を果たすとともに、施設の管理・運営においても協定書や運用基準にもとづき適切に施行されていた。</p> <p>また、令和元年度は、台風19号による被害と新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、予定していた3つの自主事業については、中止または延期せざるを得ない事業もあったが、事業内容を変更して臨機応変に対応し実施することができた事業もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ミュージアム3館巡り ⇒ 予定どおり実施 ○植物観察会 ⇒ 子供フィッシング教室に内容を変更して実施 ○野鳥観察会 ⇒ 翌年度に延期
A	20	
B	0	
C	0	